

2023年4月18日

東洋大学がBEAMS SPORTSのデザインした スポーツシンボルマークを発表！

スポーツの応援文化醸成に加え
オリジナルグッズの売り上げの一部を
運動部の支援に



東洋大学（東京都文京区／学長 矢口悦子）は、東洋大学のスポーツを象徴する、スポーツシンボルマークを、株式会社ビームス（東京都渋谷区／代表取締役社長 設楽洋）のブランドBEAMS SPORTS（ビームス スポーツ）のデザインで制作。2023年4月22日（土）に開催するイベント「赤羽台キャンパス 新校舎「HELSPO HUB-3」アリーナのこけら落としイベント」で披露します。

東洋大学は2016年に「TOYO SPORTS VISION ～スポーツを「哲学」し、人と社会と世界をむすぶ。～」を制定し、スポーツを『する』人『みる』人『ささえる』人の育成など、スポーツを通じた人材育成や社会貢献活動を推進しています。

運動部に所属する学生と、運動部に所属しない学生や東洋大学の卒業生、学生の家族などが一体感をもって運動部への応援を盛り上げていくもので、今回、そのアイコン機能としてスポーツシンボルマークを導入することにしました。導入にあたっては、スポーツカルチャーの生み出すポジティブなエネルギーを身近に感じるためのきっかけを作るブランドのBEAMS SPORTSにデザイン依頼しました。

BEAMS SPORTSのデザインによるスポーツシンボルマークの制定は国内の大学では、初の試みであり、大学スポーツで社会・地域貢献を進めるといふ東洋大学の考えにも共感をいただいています。

デザインコンセプトは「鶏」としました。白山キャンパスの付近は、その昔、夜ごと鶏の声がかかることを怪しんで土を掘ったところ、金の鶏が掘り出されたという伝説から『鶏声ヶ窪』と呼ばれていたそうです。また、本学前身の「哲学館」の時代に敷地内にあった古井戸が鶏声ヶ井戸と言われ、鶏の鳴き声はそこから聞こえたとされていると、本学創立者・井上円了の著作にも記されています。そのようなエピソードをもとに、東洋大学の数多くの学生が伝説の金の鶏となり、世界を舞台に声を上げ羽ばたいていくを願ってデザインしました。

スポーツシンボルマークは、かく運動部のユニフォーム等に順次導入するほか、BEAMS SPORTSのデザインする、Tシャツ・ポロシャツ・トレーナー・パーカー等選手以外も着用できるオリジナルアパレルをインターネットで販売し、売り上げの一部を運動部への支援に充てることにしています。

【報道関係者様からのお問い合わせ先】

東洋大学PR事務局（電通PRC内） 担当：井藤・藤田

MAIL : toyo@group.dentsuprc.co.jp